



Impact of prognostic nutritional index on the occurrence of post-operative delirium after total knee arthroplasty

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2025-05-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 堀田, 健介 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/0002000414

論文審査の結果の要旨

術後せん妄は一般的に見られる合併症であり、様々な問題を引き起こしている。術後せん妄の要因としては、栄養不良が関連するといわれているが、人工膝関節全置換術（TKA）後における栄養指数とせん妄の関連についての報告はない。本研究の目的は、TKA 術後せん妄のリスク因子について栄養評価を含めて特定し、術前に予測可能な因子のカットオフ値を決定することである。本研究は、浜松医科大学臨床研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号:23-014）。

2010 年から 2022 年の期間に、当院で TKA を受けた 234 名（289 膝）の患者を対象とした。せん妄は Confusion Assessment Method を使用し術後 14 日以内の医療記録に基づいて診断し、術後せん妄の有無で 2 群間の比較を行った。年齢、性別、BMI、血清アルブミン値、総リンパ球数、総コレステロール値、prognostic nutritional index（PNI）、controlling nutritional status（CONUT）スコア、geriatric nutritional risk index（GNRI）、と術後せん妄のオッズ比を多変量回帰分析した。術後せん妄（D 群（16 例：5.5%）とせん妄無し（ND 群（273 例）に分けられた。年齢（D 群: 80.6 歳、ND 群: 73.7 歳）、血清アルブミン値（D 群: 3.69、ND 群: 4.19）、PNI（D 群: 43.8、ND 群: 51.0）、CONUT スコア（D 群: 2.1、ND 群: 0.9）、GNRI（D 群: 101.8、ND 群: 111.7）、脳血管疾患の既往歴（D 群: 5/16、ND 群: 13/273）で有意差がみられた。栄養指標の中で PNI が CONUT スコアや GNRI よりも術後せん妄のリスク因子として関連が強いことが示された。TKA 術後せん妄の有意なリスク因子として、年齢、PNI、脳血管疾患の既往歴が特定された。ROC 曲線の解析で、カットオフ値は、PNI: 47.4 未満、年齢: 78.5 歳以上であった。

審査委員会では、TKA 術後せん妄と PNI の関係を初めて報告したこと、それにより今後の治療計画の重要な指標となり得ることを高く評価した。以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 山内 克哉

副査 尾島 俊之 副査 三澤 清